



2026年 8 月 14 日

各 位

会社名	株式会社Will Smart
代表者名	代表取締役社長 石井 康弘
コード番号	175A（東証グロース市場）
問合せ先	コーポレート本部長 若林 孝太郎 (TEL 03-3527-2100)

「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に関するお知らせ

当社は、財務諸表等において「継続企業の前提に関する注記」を記載しておりましたが、本日提出の2026年12月期半期報告書及び本日公表の2026年12月期第2四半期（中間期）決算短信において、当該注記の記載を解消いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

当社は、営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスが継続していたことに加え、2025年12月期において重要な当期純損失を計上したことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在し、かつ、その解消に向けた資本の増強等の資金調達が未確定であったことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものと認識し、2025年12月期の財務諸表より「継続企業の前提に関する注記」を記載しておりました。

その後、当社は、2026年5月15日公表の「資本業務提携及び第三者割当による新株式の発行、並びにその他の関係会社及び親会社の異動（見込み）に関するお知らせ」に記載のとおり総額449,971千円の第三者割当増資による新株式の発行を決議し、2026年6月1日付でその払込みが完了いたしました。この結果、当中間会計期間末（2026年6月30日現在）における純資産は290,160千円、自己資本比率は36.9%となり、当第1四半期会計期間末において生じていた債務超過の状態を解消いたしました。また、現金及び現金同等物は561,352千円となり、継続的な事業運営に十分な資金を確保したことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断し、当該注記の記載を解消いたしました。

なお、当社は営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスが継続しており、前事業年度において重要な当期純損失を計上し、当中間会計期間においても中間純損失を計上してことから、引き続き、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況が存在しております。当該状況に対する対応策の内容につきましては、本日公表の2026年12月期第2四半期（中間期）決算短信「（継続企業の前提に関する重要事象等）」をご参照ください。

当社といたしましては、引き続き財務基盤の安定及び収益性の改善に取り組み、早期の業績回復に努めてまいります。株主及び投資家の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上